



社保テキストニュース No.1

2024年1月吉日

発行：中央社保協・社保テキストチーム

〒110-0013 東京都台東区入谷 1-9-5 医労連会館 5 階

電話 03-5808-5344 FAX03-5808-5345

明けましておめでとうございます！社保テキストの魅力をより知っていただくため、

ニュースの発行をスタートします(‘ω’)ノ



～社保テキスト第2弾ご活用ください！！好評発売中です！

ご注文お待ちしております！ 1冊：550円（ご注文は中央社保協まで）



昨年5月に社会保障入門テキスト2nd（行動編）を発行しました。

<第2弾テキストのポイント！>

1. 「若い世代向け」は変わらず、「学びから行動へ」をコンセプトに作成。
2. 導入としてマンガにも挑戦しました！
フードバンクの取り組みの事例を取り上げています！
3. 関連する動画を第2章・第3章・第5章で取り入れました

第1弾も好評販売中！！



改めて社保テキストとは…？

・社会保障運動に携わる若い世代向け主に中央社保協加盟の団体の労働者を想定して作成！

加えて、ベテラン世代にも若い世代の考えていることなどを知ってもらうことで、運動の世代継承などにも役立ててもらえればと思います。

→産まれた時から消費税や窓口負担がある世代にそもそも「社会保障って何？」を考えてもらうきっかけに
社会保障の運動の楽しさなどを伝える！ などなど

社保テキスト第2弾出来ました！



学習会☆第1弾(全4回シリーズ)

講師：神戸大学・井口 克郎准教授

社保テキストとは？

●若い世代には...

普段感じていることを交流しながら、運動に我が事として取り組めるヒントを学んでもらう

・例えば、社会保障運動に携わったきっかけ、賃金が3万円上がったら何に使う？など身近なテーマから自分たちを取り巻く社会保障の現状をつかむ

●ベテラン世代には...

社会保障を取り巻く情勢を確認しながら、社会保障運動を幅広い層で取り組むヒントを学ぶ

・例えば、テキストのフリートークから若い世代の考えていることなどを参考に運動の広がり構築する

社保テキスト講師育成学習会やります！

2024年4月16日(火) 18:00～19:00

※学習会は、地域社保協などで社保テキストを活用して学習会を開催する際の講師育成が目的です。

第1弾として、社保テキストのアドバイザーである井口先生にテキストに執筆いただいた内容をもとにお話いただきます。

※参加者はテキストご持参の上、ご参加ください！！



参加はこちらから⇒Zoom ミーティング

<https://zoom.us/j/99553038323?pwd=WXRrWnlEQk02YVVueS9lcmJNOEU3Zz09>

ミーティング ID: 995 5303 8323

パスコード: 632954



第165回社会保障の勉強会 報告メモ

参加：歯科医師5人

ゲストWEB参加：東京歯科医師2人

事)城間(WEB)：2人

1. テキストを読み合わせて意見交換

長友薫輝・佛教大学准教授『高齢者優遇論』は本当か? (『社会保障入門テキスト2nd 行動編』)
追加資料：「日本高齢者人権宣言」(『社会保障』2023年春号)

<要旨>

- ・結論①：日本では高齢者は優遇されていないのが実態である。
 - ・結論②：高齢者以外の分野があまりにも冷遇されていて、高齢者関連の社会保障が優遇されているように見えるが、優遇と言える水準では全くない。
 - ・日本の高齢化率は高いにも関わらず、GDP(国内総生産)に占める社会保障給付費の割合は国際比較においても低い水準にとどまっている。
- ⇒高齢者にすらお金を出していない。「高齢者優遇論」は幻想。高齢者以外の支出はさらに低水準。
- ・老齢基礎年金満額受給額は月約6万円。※最大加入40年間の国民年金保険料納付済みの場合。
- ⇒公的年金による所得保障の充実が欠かせない。
- ・「高齢者優遇論」は公的医療費抑制が本格的に始まる契機となった「医療費亡国論」と似ている。
- ⇒医療費亡国論：①これから高齢者が増える→②高齢者が増えると医療費が増える→③膨らんだ医療費でやがて国家財政が圧迫される。※後に、過大な医療費推計をしていたことが判明。
- ⇒高齢者、さらには全体的な社会保障への支出を抑制したいという意図を見抜く必要がある。
- ・コロナ禍を機に、深刻な現場の改善を図り、医療や介護などの現場で働く人々、患者・利用者・地域住民の人権保障が実現されるために、社会保障を充実させていくことが必要だ。
 - ・閉塞感がある現状だからこそ実態を直視し、特定の人々を排除しようという言説に乗らずに、多様性が発揮される社会の維持・充実を図り、誰もが尊厳ある生活を送ることができるように包摂される社会形成を目指すべきだ。そのためにも社会保障の充実が欠かせない。

<意見交換>

- ・コンパクトで非常にわかりやすい文章。結論を先に示しているのも良い。
 - ・「若者が高齢者を支える図」には、社会保障に対する国の責任が描かれていない。
 - ・高齢になっても安心して生活できる社会が理想だ。
- ⇒高齢者の方々が苛烈な負担増に苦しんでいる姿を見せられると、「現役世代」は、仮に手元少しお金があっても「老後のために貯金しなければ」と思われる。景気回復は絶対に無理。
- ⇒高齢者負担増は少子化対策にも逆行。少子化が加速する負のスパイラルしか引き起こさない。
- ・分断は自然に生起するのではなく、権力が意図的に惹起する。例. 三井三池闘争の第2組合
- ⇒分断の最たるものは戦争。分断を許容するわけにはいかない。
- ・子ども、女性、若者、高齢者、労働者、生活保護受給者等の「弱者」が攻撃し合うのではなく、それぞれ擁護し合って、連帯して社会保障改善運動に参画するのが望ましい。



高齢者優遇論は本当か？

・子ども、女性、若者、高齢者、労働者、生活保護受給者等の「弱者」が、それぞれ擁護し合って、連帯して社会保障改善運動に参画するのが望ましい。

社会保障は、資本主義の欠点を補うもの。失業（貧困状態）しても高齢（介護状態）になっても、病気や障害があっても、国が責任をもって人々に健康で文化的な生活を基本的人権として保障する必要があると思う。

今後もし引き続き理解を深めたい内容だ。興味のある先生方は是非この勉強会にご参加いただきたい。

（報告 平田寿治）

10月18日の勉強会には、東京歯科協会からの

2名のゲストを含めて7名が参加。今回は『社会保障入門テキスト2nd 行動編』から、長友薫

輝・佛教大学准教授の文章「『高齢者優遇論』は本当か？」を読み合わせ

る」などという言説を聞いたことがあるが、本当に優遇されているのだろうか。

筆者は、①日本では高齢者は優遇されていないのが実態である、②高齢者以外の分野があまりにも冷遇されていて、高齢者関連の社会保障が優遇

されているように見えるが、優遇と言える水準では全くない、と結論づけている。その裏付けとして、日本の高齢化率は高

いにも関わらず、GDP（国内総生産）に占める社会保障給付費の割合は、国際比較でも低い水準にとどまっているとい

うデータを挙げている。閉塞感がある現状だからこそ実態を直視し、特定の人々を排除しようという言説に乗らずに、多様な

性が発揮される社会の維持・充実を図り、誰もが尊厳ある生活を送ることができるよう包摂される社会形成を目指すべき

だ。そのためには社会保障の充実が欠かせない、と訴えている。意見交換では、主に下記のような声が上がった。

・高齢になっても安心して生活できる社会が理想だ。

・高齢者負担増は少子化対策にも逆行。負のスパイラルしか引き起こさない。

・「分断」の最たるものは戦争。「分断」は決して許容できない。

・高齢者負担増は少子化対策にも逆行。負のスパイラルしか引き起こさない。

・「分断」の最たるものは戦争。「分断」は決して許容できない。

・高齢者には手厚い年金がある

・高齢者には手厚い年金がある

・高齢者には手厚い年金がある

・高齢者には手厚い年金がある

・高齢者には手厚い年金がある

「社保テキスト」を使って 社会保障運動に取り組む意義や想いを語ろう！

保団連医療運動推進本部 曾根貴子事務局主査

「社保テキスト」は、中央社保協の発行する若い世代向けの社会保障入門テキストです。「社会保障とは何か?」「社会保障運動に踏み出したくなる」などをコンセプトに作成をしています。テキストの特徴は、社会保障運動に携わっている30代までの若い世代とフリートークを行い、若い世代の感じていることをテキストに反映する、ベテラン世代が若い世代に伝えたいことを分かりやすく伝えていることです。第1弾は2021年9月、第2弾は今年5月に発行しました。

この間、私はテキスト作成に携わり、地域社保協などから講演依頼をいただき、「今の若い人たちは何を考えているのか?」「どうしたら社会保障運動を我が事として携わってもらえるか」といった声に対し、「社会保障に関連する仕事に就いた理由」「職場でのモヤモヤ」などを共有しながら、どの世代も社会保障運動に楽しく関わっていけるヒントになるような講演を行っています。

講演では、講師の話聞く時間は最小限に、参加者が話しやすい雰囲気を作り、議論の時間を長く取っています。今回は、保団連事務局学習会の経験を紹介します。学習会は、全体1時間で最初にテキストの内容や作成目的などを紹介した上でテーマを設けて議論しました。

社会保障運動に携わったきっかけを共有

保団連事務局も20～30代の事務局が増えています。「制度のせいで困っている人たちが他人事には出来ない」「役員の社会保障改善運動への熱い想いに感動する」など入局した初心や日頃感じていることを交流しました。保団連に就職した想いやきっかけはどの世代も変わりません。



左：社保テキスト第1弾 右：第2弾

「賃金が5万円上がったなら何をしたい？」身近なテーマから現状を考える

このテーマ（各章ごとに議論テーマを掲載）はどの講演でも非常に盛り上がります。

若い世代からは「貯金したい」という声が多く聞かれます。保団連でも奨学金の返済や老後への不安の声が出ました。これまで講演して、「趣味や旅行、遊びに使いたい」という回答は聞いたことがありません。私たちの生活が困難な状況に置かれているということの反映とともに将来不安の大きな社会状況が明らかになります。これらの議論から、私たちが主体的に運動し、社会保障の改善が必要という意思統一ができたと思います。

職場で議論することの大切さ

今回、保団連の学習会では若い世代を中心に25人程度が発言しました。一緒に働いている仲間が日頃どのようなことを考えながら働いているのか、特にコロナ禍で入局した事務局は懇親の機会が少ない中で業務に当たっている事務局も多いかと思います。改めて、協会・医会の団結のためにも事務局内での学習会などにぜひ社保テキストをご活用ください。もし、講師依頼があれば…全国どこでも駆けつけます！